

日本語と日本文学

第 19 号

-
- 『雲母集』の「新生・序歌」に関する一考察…小倉真理子……(1)
- 『行人』論……………稲垣 政行……(9)
—— 一郎の発見、そして一郎の求めた世界へ——
- 『檜垣』の老女をめぐる………金 忠 永……(20)
—— 「水を汲む」所作から捉えられるシテ像の
考察——
- 『朗詠要抄 因空本』考……………青柳 隆志……(31)
- 山上憶良の表現の独自性……………村田カンナ……(41)
—— 「うちなびき こやしぬれ」をめぐる——
-
- いわゆる形式名詞に関わるモダリティ……………金 玉 任 …(左1)
—— ノダを中心に——
- アスペクトと局面動詞……………呉 鍾 烈 …(左12)
- 逆接のレトリック……………香西 秀信 …(左21)
-

平成 5 年 10 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

一、投稿論文は三十枚程度

一、原稿〆切は毎年二度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

305 茨城県つくば市天王台一―一―

〒筑波大学文芸・言語学系事務室内

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

昭和六十一年総会で『日本語と日本文学』誌の年二回発行が決まりました。これは創刊当初に計画しました最小発行回数をようやく実現できたものであります。

学会機関誌というまでもなく、学外のOB、学内の教官および学生の三者が一体となつて、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものがあります。従いまして、増刊されました本誌の一層の充実は、以前にも増してこの三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。

編集後記

本号から印刷所が変わりました。これまで印刷をお願いし、いろいろと御迷惑をおかけした笠間書院には誌上を借りて厚く御礼申し上げます。

本誌には従来に較べて論文が一本多く入っております。これはいづれも甲乙つけがたかった結果で、編集委員会としてはむしろ喜んでおります。これからも当委員会を困らせるような質のよい論文が多く投稿されますことを期待しております。

ただ諸般の事情により発刊が大幅に遅れましたことを会員の皆様にお詫び申し上げます。

平成五年十月二十日印刷

平成五年十月二十日発行

305 茨城県つくば市天王台一―一―

〒筑波大学 文芸・言語学系内

編集・発行 筑波大学国語国文学会

代表者 桑原博史

印刷所 ニッセイエプロ株式会社

Tel. 〇二九八(五一)七六五二